異なるものとの「出会い」

文学部長
宇佐美 毅
Takeshi USAMI

中央大学新入生の皆さん、入学おめでとうございます。わが中央大学は、学問の楽しさや奥深さを存分に味わえる場所です。これからその場所で、おおいに学び、おおいに学生生活を楽しんでください。これから皆さんは、今まで出会わなかったような人びと、出会わなかったような考え方に接することでしょう。その「出会い」をどうか大切にしてください。

「出会い」とは、通常は知らないものと初めて出会うことをいいます。たとえば、この社会にはさまざまな年齢の人がいます。この大学では、かなりの年齢差のある人びとが集まっています。皆さんより10歳以上も年上の大学院生もいるでしょうし、中学や高校なら定年退職しているような年齢の先生が皆さんの前の教壇に立つかもしれません。そんな年齢差の中で感じる埋めがたいギャップもあるでしょうし、だからこそ学べることもたくさんあります。

また、「出会い」とは、知らないものと初めて出会うだけではなく、知っているはずのものとあらためて出会うことでもあります。たとえば、この世界には男性と女性がいます。それは誰でも知っていることでしょう。しかし、お互いに知らないことは山ほどあります。同性同士でもわからないことがあります。さらにいえば、男性と女性という単純な二分法では割り切れない性のありかたがあることも、本当の意味ではわかっていないのかもしれません。わかったつもりでいたことをあらためて考えることも、大切な「出会い」なのです。

大学とは、そうした異なるものたち同士が協力したり切磋琢磨したりしながら、新しい何かを作っていこうとする場所です。これからの時代にあっては、世界的な規模で協力をしていかなければ解決できない問題がますます増えていきます。そのような社会にあっては、同じ性質を持つ者同士が団結するだけではなく、異なるもの同士がどのように触れ合っていくのか、どのようにお互いを理解し合って共に生きていくのか、ということがもっとも大切な課題になるでしょう。

皆さんはこの中央大学という場所で、多くの異なるものとの「出会い」を経験しながら、おおいに学んでください。それが、人間の文化と社会のこれからについて考えることに、必ず結びついていくことでしょう。

英雄の神話

総合政策学部長
堤 和通
Kazumichi TSUTSUMI

映画『スターウォーズ』は皆さんもご存知だと思います。旧作、新作の監督ジョージ・ルーカスは神話学者キャンベルの説く英雄像に着想を得たといわれています。それは、旅に出て帰還する、というパターンが古今東西の英雄譚に共通である、ということです。

大学に入り新入生としての生活が始まるというのは、それに似ているように思います。自分の見知ったところから見知らぬところに冒険に出る、というのに似ていると思います。それは、師や先輩との出会いや、学びへの関心、専門的知見から切り開かれる地平、など様々なかたちをとることでしょう。

英雄譚では旅に出るだけでなく、帰還するといいます。それは、自分の可能性を良心に恥じることなく最大限活かす道をみつけた、ということではないかと思います。『スターウォーズ』旧作では、主人公のルークは故郷を後に、フォースの修養の旅に出て、闘いを経てフォースの仲間の元に戻ります。再度、キャンベルの説くところによると、運命の輪のたとえが語られます。運命の輪では、周りの輪につかまっていると輪の動きに従って上がったり下がったりしますが、軸につかまっていると輪の動きに左右されず自分の中心が見出される、といいます。キャラクター（人格）はこのような軸を見出すのに養われるべきものでしょうが、大学で学修する専門分野、専門的知見は、自分の可能性がそこで発揮され、人間が持つ卓越性の芽になり得るという点で、同様に、自分の中心となる軸になるはずです。

大学生活はこれまでにない自由を皆さんに提供する時期です。その間大いに冒険をしてもらいたいと思います。冒険に出るには今、ここにいる自分を出発点にするほかなく、その意味で、生意気さも要るかもしれません。大学生活を終えれば、好むと好まざるにかかわらず、親元から心理的、経済的に離れ社会に出て独り立ちするという冒険が待っています。

大学生活の旅を実り多いものにするには、やはり日々の試行錯誤が欠かせないでしょう。師との出会いは冒険の一行程であり、教えを受けること自体が冒険を続けることでもあります。弟子が準備ができたときに師が現れる、といわれます。自分で問い、探し、求めるという姿勢を忘れずに、様々な出会いから実り多い旅となるよう願っています。